

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間: 2006年9月中旬から10月下旬までの旬別  
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業: さんま棒受網漁業  
 対象魚群: 南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 9月中旬には中位水準、9月下旬は高位水準へ増加し、10月上旬頃ピークに達する。10月中旬から減少を始め、10月下旬には低位水準となる。
- (2) 漁場: 9月中旬は、落石～釧路沖で漁場が持続する。落石～釧路沖の漁場は、10月下旬まで持続する。一方、9月下旬には、襟裳岬周辺でも散発的に漁場ができる可能性がある。10月上旬には、襟裳岬沖まで漁場が南下する。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 9月下旬には断続的ながら漁場が形成される可能性がある。本格的な漁場形成は、10月上旬以降となる。10月中旬には中位水準となり、10月下旬も中位水準で持続する。
- (2) 漁場: 9月下旬には八戸～宮古沖において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。10月上旬は八戸～宮古沖、10月中旬は三陸北部が主漁場となる。10月下旬には、漁場が三陸南部まで広がる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬～中旬は、来遊量が少なく、漁場はできても断続的である。10月下旬には、低水準ながらも本格的な来遊がある。
- (2) 漁場: 10月上旬～中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位増加	高位増加	高位低下	中位低下	低位減少
	漁 場	落石～釧路沖	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向		低位増加	低位増加	中位増加	中位水準
	漁 場		八戸～宮古沖	八戸～宮古沖	北部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向			断続的	断続的	低位増加
	漁 場			北部	北部	北部

### 3. 漁況の経過概要

(8月下旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を下回り、低水準であった。日別 CPUE (1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半は来遊量が非常に少なかったが、28 日夜から徐々に増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南～南東 10～15 海里付近と霧多布南～厚岸大黒島南 15 海里付近。漁場となった表面水温は、16～21℃と高い。28 日夜～31 日夜にかけて霧多布南～厚岸大黒島南沖に漁場ができた他は、落石沖が漁場であった。主に 10トン未満の小型船が操業。27 日夜までは、数隻のみ 3～7トン漁獲できたが、ほとんどの船は 0.1～1トン程度しか漁獲できなかった。28 日夜以降は、徐々に漁獲量が増加し、31 日夜には 15トン程度漁獲できた船もあった。

##### (3) 魚体

29～32cm モードの大型魚が主体。中型魚以下の魚の混じり具合は、日によって異なり、1 割程度の日もあれば、4 割に達する日もあった。体重 150g 台が主体で、昨年よりも痩せている魚が多かった。